



SANJO ROTARY CLUB

三條ロータリークラブ

週報 No. 24

2009.1.7 (No.2531)

第2560地区ガバナー／馬場 信彦
 会 長／中村 和彦
 会長エレクト／菊池 渉 (クラブ奉仕A)
 副 会 長／榊山 仁 (クラブ奉仕B)
 幹 事／石月 良典
 S A A／明田川賢一
 会 計／杉山 幸英

例会日／毎週水曜日12:30～
 例会場及び事務局／
 三條市旭町2-5-10 三條信用金庫本店内
 例会場／TEL 34-3311
 事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail: sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
 http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
 (〃はshiftを押しながら“へ”のキーを
 押ししてください)

■本日の出席会員数:59名中44名
 ■先々週出席率:71.0%

【ゲスト】

・三條市長 國定勇人 様

【先週のメイクアップ】

[12.26] 三條東RCへ

- ・小越憲泰さん、藤田絃一さん
- ・加藤紋次郎さん、西川文夫さん
- ・渡邊喜彦さん

[12.29] 三條南RCへ

- ・丸山行彦さん、藤田絃一さん
- ・杉山幸英さん、渡邊喜彦さん
- ・西川文夫さん

[12.30] 三條北RCへ

- ・会田二郎さん、萩根澤隆雄さん
- ・藤田絃一さん、山田富義さん



フラッシュオレンジ

会 長 挨拶

中村和彦 会長

ひなつに 珈 琲



日本人が初めて珈琲を飲んだのは、元禄の初めごろと言われている。

本格的な輸入は明治10年で珈琲店は同19年に「洗愁亭」が現れている。

珈琲の開花、結実には苗を移植してから約3年、5～6年で収穫が安定し、収穫可能期間は20～30年、大きく分けるとアラビカ種(エチオピア原産)、ロブスター種(コンゴ原産)、リベリカ種(リベリカ原産)の3つ。

栽培適地は北緯25度、南緯25度(南北回帰線)の間で、コーヒーベルトといわれ、標高200～1000m、平均気温20度C(最低15度C、最高30度C)、雨量は1000mm/年が望ましい。

珈琲の味の8割は焙煎で決まる。

焙煎で化学変化が起こり、香り、甘味、酸味、苦味、渋味、コクが生まれる。

ひき方、たて方、ブレンドにもよるが、焙煎から1週間以内でのむこと。



「夢をかたちに」

2008～2009年度国際ロータリーのテーマ

幹事報告

石月良典 幹事

◎馬場ガバナー事務所よりロータリーレート変更のご案内が届いております。

96円(現行) → 1月1日より88円

◎いからしの里より、クリスマスサンタクロース派遣のお礼状が届いております。

◎1月21日(水)は、4クラブ合同例会講演会です。

と き 1月21日(水)

日 程 PM12:00～PM1:40

(AM11:30～食事の準備ができております。PM12:20までにお食べください。)

ニコニコBOX

馬場信彦さん

新春のお慶びを申し上げます。

さて本日、三条商工会議所 阿部専務がご入会されることを昨日お聞きしましたので、応援にきました。

中村和彦さん

皆様、あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈いします。

國定市長、公務多忙の中ありがとうございます。

卓話、楽しみにしています。

渡辺勝利さん

明けましておめでとうございます。

阿部新会員を歓迎します。

國定市長、卓話ありがとうございます。

馬場ガバナー、来訪ありがとうございます。

小出子恵出さん

明けましておめでとうございます。

元気になる年になるよう願っています。

平原信行さん

國定市長、卓話ありがとうございます。

また、年賀状をくださいました皆様に感謝致しますと共に、今年もよろしくお祈いします。

平沼潤一さん

明けましておめでとうございます。

旧年中はお世話になりました、ありがとうございます。着任して半年が経ち、少し慣れてきました。本年もよろしくお祈い致します。

五十嵐昭一さん、小越憲泰さん、船越正夫さん、

松永一義さん、山田富義さん、藤田紘一さん、

西川文夫さん、石塚欣司さん、捧賢一さん、

帰山肇さん、菊池涉さん、外山雅也さん、

樺山仁さん、成田秀雄さん、明田川賢一さん、

斎藤弘文さん、渋谷健一さん、石橋育於さん、

渡邊喜彦さん、石月良典さん、伊藤寛一さん、

熊倉昌平さん、丸山行彦さん

あけましておめでとうございます。

本年もよろしくお祈い致します。

國定市長、卓話ありがとうございます。

高橋司さん、金子俊郎さん、西山徳厚さん、

石倉政雄さん、若槻八十彦さん、小林敬典さん、

五十嵐浩さん、野崎喜一郎さん、佐野勝榮さん、

新年おめでとうございます。

本年もよろしくお祈い致します。

1月7日分 ¥ 56,000

今年度累計 ¥ 721,000

卓 話



三条市長 國定勇人 様

改めまして皆様新年明けましておめでとうございます。

只今ご紹介頂きました三条市長の國定でございます。本日は卓話をさせて頂く機会を割いて頂きまして誠にありがとうございます。

また昨年中は三条市政に対して大変深いご理解とご協力を頂きました事、誠に感謝申し上げますと共に本年も引き続きご理解とご協力を頂戴できればと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

さて、例年こういうお話をさせて頂く機会を得る度に、通常であれば一般的な三条市が今抱えている課題等についてお話をしようと思っているわけでございますし、またロータリークラブさんの理念が地域に対する社会に対する奉仕を掲げてという事もある、あまり生臭い話をするのをやめようと思っていたところでもありますけれど、せっかく頂いたお時間でもございますし、そうした現実を直視しないでお話をするのも私自身の性格から、こう少しストーンと落ちないところもありますので、今日は少し生臭い今の経済情勢をめぐる情勢の中で私共が今ご支援申し上げようとしている事、そして今までしてきた事を経過的な事も踏まえてお話をさせて頂いて、皆様方のまさに生業の方の一助につながればと考えていますのでしばらくの間お付き合いをいただければと思っております。

資料をつらつらとお配りをさせて頂きました。

ちょっと資料をまとめる暇も無かったものですからいろんな資料が雑多にご用意させて頂いてしまっただ大変恐縮をしておりますが、少しそれぞれの資料をご覧頂きながらお話を聞いて頂ければと思っております。

まずこの広報資料1が配られているかと思えますけれども、ご案内のとおり昨年秋口に、その複成としてはサブプライムローン問題というものはずっと有った訳ですけれども、実際問題として世界経済に対して最初に金融界の中で大きなインパクトを与えたのはご案内の通りリーマンショックでございました。

当時リーマンが破綻をしたと言った時には、少なくとも私は正直ここまで早い段階で実態経済に対して悪い影響が及ぼされるという事は全く想像しておりませんでした。

当時の私の勝手な感覚では3ヶ月は遅れてやって来るだろうと見込んでいた訳ではありますけれども、

そうは申しあげましてもいずれは来るであろうという中ではありまして、まだ当時の燕三条地域では実際の声としては殆ど聞かれていなかった状況ではありましたけれども、金融機関さんともご協議をさせて頂いたなかで11月11日に、この時点では私たちとしては予防的な措置というような位置づけで発表させて頂きましたけれども、中小企業向けの緊急支援の公示をさせて頂いたところでございます。

具体的なアクションと致しましては書いてございます通り、信用保証料補助制度の拡充という事で新潟県のセーフティネット資金の利用者に対しまして信用保証料の負担軽減をしていこうと発表させて頂いた翌日の12日からこの制度の拡充措置をさせて頂いたと共に2点目3点目にも書いてございます相談会の開催、そして総合的な総合窓口の開催という事をさせて頂いたところでございます。

そこから後の推移については私が皆様方に申し上げるのはたいへん釈迦に説法ではありますが、少なくとも私共が受け止めた感覚から申し上げますと11月の最終週迄を聞くまではそうは言ってもこのエリアに対してダイレクトな形で面的な広がりが見えるという状況ではないのかなというような形で推移をしておった訳ですけれども、どうも11月の最終週頃から急激にいろんなところで声が聞こえるようになってきて今まさにこうゆうような状況になっているのはご案内の通りだと思っております。

実際問題ですが12月末日迄の推計結果が出ていないんですけれども、この県セーフティネット資金で三条市の補給対象としてさせて頂いたご利用関係にみましても、12月末日ではなくて16日迄という中途半端な集計状況で恐縮でございますけれども47件融資総額としては2億4千万円のご利用を頂いているところでございます。

それによりまして信用保証料補助としての市の負担額が359万円に上っている状況でございます。これは今回の信用保証料拡充措置として12月議会のほうに補正予算として提案をさせて頂きました額が320万円で行ったのですでにそれをオーバーしている状況が今続いているという事でございまして、これを見ても非常にこの地域に対して与えているインパクト、負のインパクトの大きさというものを感じ取ることができると思っております。そしてまた中小企業信用保険法第2条第4項5号の認定企業・認定業種というものがございます。いわゆる不況業種と言われている業種でございましてこの企業さんが三条市の中小企業振興資金をどれだけ利用されているのかという状況でございましてけれどもこの

1月6日現在で355件に上っております。

国が緊急対策を打ち出した10月31日以降だけを見ますと実に355件のうち334件がこれ以降でございますのでいかにリーマンショック以降のご利用いただいている企業さんの数が急増しているかという事がこの数字だけでもご覧頂けると思っております。

そうした状況の中にありまして12月24日正にクリスマススイブであったわけでありましてけれども経営団体の方々、そして労働者関係団体の方々また商工会議所さんをはじめ各関係団体の方々、そして私共行政が一堂に会してこの燕三条地域におきます現状認識について情報を交換しあって共通認識を得ようではないかとの会合を開催させて頂いたところでございます。

総じて今ほど申し上げました通り非常に厳しい状況が、特に12月の声を聴いてから厳しさを増しているんだとお声を沢山頂きました。

何を増して良く言われたのがこの先どうなっていくかわからんという不透明感さというものに対してのご不安感が非常に多いんだという事を、まあ当たり前と言ってしまうと当たり前かもしれませんけれども、公の席の場で確認できたということは非常に深刻な事態になっているんだという事を、裏を返せば言わざるを得ない状況なのではないかというふうに考えている訳でございますが、そうした状況の中で同日付けでこのクリスマススイブに行われました懇談会が燕市さんと三条市で合同で開催をさせて頂いたという経緯もございますし、この地域をみますとこれは後ほど時間があれば触れたいと思っておりますが三条市も燕市も無い訳でございますして一体となってこう言うような状況の時には、それぞれの市がそれぞれの支援策を打ち出すのではなくて両市が一体となって対策を打って行かなければいけないと言う前提理解の基で、燕三条地域の労働問題等に関する共同声明という形で同日付けで発表させて頂きました。

その中身そのものがもう1枚皆様方の御手元に届いていようかと思っております。

この共同声明の内容は三条・燕両市が果たすべき事項と県に期待する事項、そして国に期待する事項の3項目からなっている訳でございます。

国・県に対して、国に対しては少し後ほどご紹介を申し上げたいと思っておりますけれども国・県に期待する事項というのはお読み頂ければと思っておりますが、なんと言っても国には一昨日始まりました通常国会、始まりましたけれども一日も早く第2次補正をあげて頂きたいという事と同じ様に、21年度当初予算につきましても一日も早くあげて頂きたいとい

うのを一番に申し上げたいという事でございますし、県に対しましては三条市・燕市両市でもやりたいと思っておりますけれども、技術開発に対する支援であったり、販路開拓に対する支援というものを両市だけでなく県の底支えのなかでして頂きたい、という事を打ち出させて頂いているところでございますし、この共同声明前後から県の担当課共々で今どんな対策をこうずる事ができるのかという事を私たちからのお願いを込めて、いろいろ協議を進めさせて頂いているという事だけ今日の段階ではお伝えを申し上げたいと思っております。

そこで私たちがどうすべきなのかという事でございます。

まず両市が果たすべき事項事項のところの1つ目これは早急にやっ行って行かなければいけない。

ようするに来年度当初予算を待たずして出来る限り早い年度内の段階で手を打って行きたいと意味を込めて、ひとつめには早急にという言葉が入っていますし二言目の方には早急にという言葉が入っていないという事はそこがミソな訳でけれども、1点目は年度内に兎に角前倒しをして何かをしなければいけませんねと言う事でございます。

何をしなければいけないのかというのが下から3行目の所から書いてありますけれども、金融政策等を中心とした中小企業の経営の安定化を図る為の措置を早急にこうじていきたいんだという事を掲げさせて頂いております。兎に角その先の技術革新であったり人材の育成であったりという中長期的なスパンよりも先立って、なんとしても経営安定化に対して私共としてお手伝い出来る事があればどんどんして行きたいというような思いの中でこうした事を打ち出させて頂いているところでございます。

繰り返しになりますけれども11月12日に、11日付けの発表で翌日から予防的な緊急経済措置は打ち出させて頂いているところでございますが、先程も申し上げた様な状況もございます。どんな形で新しい対策がうてるかというところについて今、両市そして関係機関共々精力的な協議をさせて頂いてところでございますが、一日も早く皆様のところにどんな対応をして行きたいか、事を具体的にお知らせをしていきたいと思っておりますので今暫くお時間を頂戴出来ればと思っております。

2点目でございますが1点目はまずは緊急的に経営安定化の為に、私達が下支えする事がもしあればという事での措置をこうじさせて頂くという事は言うまでもない事でありましてけれども、ただそれだけでは折角他方でこの燕三条地域が持っております技

術力の高さということは、これはいつの時代であっても見遇ごしてはいけない重要な要素で有る訳でございますし、こんな状況だからこそ、そうした技術力の高さというものが世界に対してあらためて再認識をして頂く為の絶好の機会かもしれませんし、こうした時にだからこそ、そうした足場がためをする為の技術開発、そして販路改革をしていかなければ次のうねりに対しての下準備がまた出来ないのではないのかなというふうに思っております。

こうした事についてはできれば来年度、21年度当初予算の中で具体的なプランを盛り込んだ中でできれば両市足並みを揃える形で、さらに欲を申し上げれば新潟県とも足並みを揃える形でどちらかというところ中期的な、だけでも大切な課題である人材育成、技術開発、そして販路開拓に対する措置を講じて参りたいというふうに思っています。その時にキーワードになるのはおそらく三条燕の唯一の架け橋であります県央地域地場産業振興センターを核と致しまして、そこを主軸として皆様方に対して陰ながらご支援を申し上げる体制を、ほんとに抜本的にできれば抜本的に踏み込んだ形で注力をして参りたいなというふうに思っております。そんな思いを両市が果たすべき事項の2点目のところに書いていますところでございます。

只、何分今日このタイミングで具体的なカタチで申し上げる一つも無いという事に対してたいへん恥ずべき事態でございまして恐縮をしておるんですけども、何らかのカタチのモノを検討が終わったものから次から次へと皆様方に対して発表をして参りたいと考えておりますので、繰り返しになりますけれども引き続きもう暫くお時間を頂戴できればと思っております。

そんな中で国に期待する事項の中にも書いてございますが、明日、国の方をお願いして開催を致します説明会がございまして、そのご案内だけさせて頂きたいと思っております。

経営の安定化については先程申し上げました通りでございますけれども、それに合わせまして出来ればやはり労働者環境の維持、少なくとも維持は講じていって頂きたいというのが私共の本音でございます。

まあそうした所について国の方で実は緊急雇用安定助成金という中小企業緊急雇用安定助成金というものが拡充を今般されておまして、それについて中々まだ全ての企業さんに周知ご理解が進んでいないというような現状を踏まえまして、明日の木曜日午後一時半から地場産センターの7階にありますマルチ

メディア・ホールにおきまして、ハローワーク三条さんをお招き致しまして三条市と燕市と両市で説明会を開催したいというふうに考えてございます。

その紙がまた一枚案内状が書いてございますのでご関心の方はどうか足をお運び頂ければと思っておりますし、実際には要件がもう少し詳しく書いて有るのでこの紙だけお渡しするのは少し危険かと思っておりますが、一番分かりやすかったものですから、大まかな中身についてはこの中小企業緊急雇用安定助成金のご案内というもう1つの紙がございまして、ここに要件と実際の助成率、教育訓練費についての概要が書かれてございます。かなり今般の第1次補正におきまして大幅な拡充措置がなされているところがございますので、こういうものは是非ともご活用を頂ければ良いのでは無いのかなとのご紹介でございます。

あくまでこれは厚生労働省直轄の事業という事もございますので詳しくは明日開催されます説明会の中で話をお伺って頂ければたいへん有り難いと思っております。

そんなこんなで20分が過ぎようとしておりますが、実は今日元々話そうと思っていたのは最後の紙でございまして、地域の活性化に向けてという事で今程申し上げましたのは今の現実のうねりの中で、どうして行こうかという事中心にお話をさせて頂きましたが、こうした事も含めて全体としてやはり重要な事は、あらためて燕三条地域の潜在能力が元々高い訳でもありますのでその潜在能力の高さをどうやって他の地域、また国の外で訴えをして行く事が大切なのではという事を考えた時にやはり有る程度戦略的に、外に対して訴えていく手だてを講じていかなければいけないのかなというふうに考えております。

その中の代表的なところを骨格だけ申し上げたいと思えます。

一枚お捲りを頂きまして本日の内容に入ります一番上のところに図が添付されておりますけれども、今こうゆうような状況だからこそ何方かというところ経済直視したような内容に聞こえるかもしれませんが、この町に住んでいて良かったというふうに感ずる事が出来る実感の度合いとして、一番大切な事は私達人間ですからやっぱり人様から評価される事が一番だと思うのです。

いくら自分たちの町が良いんだと自分たちが言っても中々説得力に欠けるところがございまして、逆に人様からこの地域ってすごいというふうに言ってもらえれば、やっぱり人から評価されているんだ、自分たちの住んでいる町は本当にすごいんだなあと感じ

じ取る事ができる。それが最終的にはこの町に住んでいて良かったという市民の満足度につながっていくのではないかと考えております。ですから地域経済の活性化そのものの為にも市民満足度を向上させるそのものの市民生活全体を考えるためにあっても、三条若しくは燕三条という知名度をまず上げてその上で良い意味で評価をして頂くという事が、引き続き大切な作用ではないのかと考えております。そんな中で具体的に一番最小の地域軸だと私共は考えております、燕三条というエリア軸を中心とした燕三条ブランド確率という事。

そして、もう一つ幅広く見ますと新潟・長岡地域を含めて越後平野なわけですから、この地域の工業出荷額を全部足し合わせると北九州市を越える位のパフォーマンスを有している訳ですから、そういう意味での広域連携は引き続きやってみようという事。

それから話題性だけを模索するとう意味での位置点間連携という事も合わせてこうじていって三条、燕三条を知って頂いて評価をして頂くという事は、先程前半に申し上げました緊急的な経済対策と別路線で、これはこれでしっかりやっていく事が最終的には市民の満足度が増大するのに寄与して行くのではないのかなと信じて今年一年も頑張っ参りたいと思っております。

それでは、そういうパフォーマンスの部分だけ少しお話をさせて頂きたいと思えます。

1枚2枚スライドの資料が入っておりますのでこの燕三条の認識度というところと、(1)(2)というところに書いて有る円グラフとこうしたグラフが並んでいるものをご覧頂ければと思えますが、おおよそそうだろうなと思っている事が実際アンケートをとって見たらほんとうにそうでしたねというところがここに記されている訳でございます。

これはもう三条商工会議所さんのご尽力の中でアンケート調査をとって頂いた結果、圧倒的に少なくとも首都圏では三条とか県央とかそれぞれ単界の名前というよりは、むしろ燕三条の名前の方が圧倒的に売れてますよと、そうするとやっぱり燕三条という言葉で行く事が先認知度の増大には寄与して行くんじゃないんでしょうか。翻って考えて見るとこれは当たり前ですけどももはや私達が分けをする時には燕の方は洋食器の町なんだとハウスウエアーなんだと、三条の方はそうじゃないんだと。利器工匠具なんだともの言い方をしておりますが、それはそれで尊重しなければいけないのですけれども実際の工業のパフォーマンスとしてみますとその次の

ページにも有りますように、三条市の産業を代表するのは利器工匠具であったり作業工具が占める割合、また燕市さんの産業を代表する金属洋食器とかハウスウエアーが占める割合というのはいは一割以下に実際にはなっていて、圧倒的その多数の所は金属製品であったり鉄工の部分であったり電気機器といったようなところでは正に三条も燕も同じような産業構造になっているんだという訳です。

そうすると燕三条ブランドと言うことが実際に無理の無いカタチで打ち出す事ができるんだと、言うことがこうした資料からもくみ取る事が出来る事がないのかなと考えておりますし、またそれを踏まえて今度は自治パワーという意味で大きな取引を仕込もうと考えた時には、新潟と長岡と連携をしながら新潟港の活性化はこれから先20年、30年を考えていくと不可欠な要素であります。けれどもそれ込み込みでこれから先の燕三条地域の持続的な発展の可能性を考えると広域連携というものを見放すことができないのではないかと。

具体的には広域連携という括りにと進んで頂いて、その次の資料に広域的な視点を見るとが同じようにグラフとして出てくると思えます。

製造品出荷額を見ますと今まで私達はどうしても三条市だったら三条市、仮に考えても燕と三条を足算する位しか考えなかった訳ですけども新潟市と長岡市とを足し合わせて、尚且つ県央地域を足し合わせると、先程申し上げました通り北九州市を上回るような状況であり、静岡経済圏・仙台経済圏も上回るだけのパフォーマンスがあるのです。

尚且つ新潟市・長岡市の特徴と燕三条の特徴というものはそれぞれ産業構造が全くちがうので競合することが無い、ただ補完為合ってそれぞれが一体となつて大口の取引を受注する可能性が在るんだといえるのでないのかと。ただ、今そんなことを考えた時にものすごく大きく考えなければいけないのは、せっかく日本海の航路を中心として世界の物流が行き来をしているわけです。

このリーマンショック以降のコンテナの取扱がどれ位激減しているのかの部分についてはまだ数字を追っていないので恐縮しておりますけれども、世界の第5位が釜山であるわけですので津軽海峡を越えて太平洋岸を通らずにそのまま日本海を、それも素通りして釜山まで行っていると考ええると、現実問題非常に日本海側の港湾の貨物の取扱高は着実に伸びているのです。

今こんな時だからこそ新潟港に対して私達が目を向けて行かないとどんな事になってしまうのかとい

うと、秋田港を持つ秋田県であったり富山伏木港であったり鳥取県の境港であったりというところが、今官民一体となって精力的に拡充要望活動をして、話が進んでいて実際に仕事も持ってきて着々と進んでいて、今こういう状態ですから自動車産業の話を出すというのも良くないかもしれませんがヨーロッパ向けの自動車工場を造る拠点となるサンクトペテロブルクに対して、国内の部品をどこの港から出していくのかといった様などころまで日本海側の港湾は熾烈な戦いになっている時に、新潟港は日本海側の中では群を抜いてパフォーマンスが高いですからとあぐらをかいていたら、おそらくあつという間に秋田港や富山伏木港に抜かれますよという状況になってきているわけです。

そうすると最後は港が拡充されれば物が流れて行く訳で、物が流れていくのなら流通コストを抑える為にもその地場にある産業というものは30年50年単位で見ると、そこに産業が集積していく可能性があるかもしれない。そういうことを考えると今こんな時だからこそ新潟港の活性化についてもかなり目を向けていかなければ、30年後50年後のスパンで考えた時に取り返しのつかない事態になるのではないかと感じております。

そんな事もあって広域連携というのは奥の深い極めて重要な新潟県の今後の半世紀を見据えた時の、浮沈を握る重要な課題なのではないのかと考えております。

ご案内の通りこの県央の企業さんの中ではもうすでに早くから着目されて、新潟港の活性化の為に動いている企業さんは沢山いらっしゃいますけれども私達もそれに追随するカタチで目を向けていけないと思っております。

話が延々となってしまいましたけれども、こうした状況だからこそ一つ一つ課題を出していきたいと思っておりますので、この一年間どうか引き続き三条市政に対しましてご理解とご協力を頂戴できればと思っております。本日は本当に貴重なお時間を頂きまして有り難うございました。

よろしくお願いを申し上げます。

<新会員紹介>



氏 名 阿 部 晃 義
会 社 名 三条商工会議所
役 職 名 専務理事
住 所 三条市須頃 1-20
家族構成 妻

次週例会 1月21日 4クラブ合同例会 PM12:00～
於 ハミングプラザVIP

次々週例会 1月28日 外部卓話「新潟観光あれこれ」
ホテル小柳 社長 野沢幸司 様

